

# 情熱指導 思い出深く

## 恩師囲み語らう

「先生にお目にかかれてうれい」「これからもお元気で」。胆沢の社会福祉法人奥州いさわ会（藤田春芳理事長）の特別養護老



教え子一人一人の席を巡る石川廣さん(右)

### 水沢高バスケ部OB・OG

## 石川廣さん訪ねる 胆沢 沢庄 庄まゆり

人ホームやまゆり荘に入所している恩師を教え子たちが訪ね、再会を喜ぶ光景が広がった。県立水沢高校バスケ部トボール部で指導していた水沢の石川廣さん(96)を囲み、県内外のOB・OG16人が思い出を語り合っ懐かしんだ。

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、感染症法上の分類が今月「5類」に移行。これを機にこのほど、感染対策を徹底しながら同荘の研修室でバスケ部OB・OGの水籠会が「石川廣先生を囲む集い」を開いた。

石川さんは1953(昭和28)年、東京教育大(現筑波大)を卒業後、在学中からバスケ部コーチに派遣されていた同高の体育教諭に。同年に男子全国フロンキング6位(新潟インターハイベスト8)に導くなど手腕を發揮した。同高教諭着任後13年間にわたり多くの生徒を指導し、盛岡三高に転任。前沢高校長を最後に教職を退いた。同荘には昨年8月から入所しており、研修室に一足早く集まった教え子たちに拍手とともに迎えられた。石川さんは、自身の写真や来訪への感謝のメッセージを添えたカードを一人一人に手渡した。教え子たちは石川さんに花束を贈り、健康長寿を喜びながら再会を祝した。

市バスケトボール協会元会長の油井康さん(87)「水沢里館」を最年長に、元新日鐵バスケチームキャプテンの三浦真造さん(74)「千葉市」ら県外からも集合。藤田理事長や小野寺宗男・元岩谷堂高校長、奥州市議、経営者ら、石川さんの教えを受けた各年代OB・OGの面々が思い出や近況などを語り合った。当時受けたバスケへの情熱あふれる指導、ボールを追いかけて共に汗を流した日々を語る表情は皆笑顔。藤田理事長の兄でオインックス・ラ・大地(株)東京都の会長を務める藤田和芳さん(76)は「皆さんに声をかけてこうして集まってくらいい、話を聞いているとわれわれも昔を思い出す。先生は愛情を持って育ててくれた。まだまだ長生きしてもらいたい」と語りかけた。

石川さんは「こんなにたくさん集まるなんて、本当にきょうはびっくりしている。ありがと。100歳を目指しています」と語り、拍手に包まれた。(千葉伸一郎)



恩師を囲み、思い出を語り合った水高バスケ部OB・OG